The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	滋賀県長浜市における待遇表現の記述 : 日本語諸方言の待遇表現記述にむけて
Author(s)	酒井, 雅史
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2012, 46, p. 81-96
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27240
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

滋賀県長浜市における待遇表現の記述

── 日本語諸方言の待遇表現記述にむけて ──

酒　井　雅　史

キーワード：滋賀県長浜市，待遇表現

1. はじめに

本稿では、滋賀県長浜市方言を例にして具体的に、談話調査・面接調査の両方の調査結果をふまえたうえで滋賀県長浜市方言における待遇表現形式について以下のことを述べる。

(a) 滋賀県長浜市において主語をマークする待遇表現形式は、ハル・ヤハル、アル・ヤアル、ンス・ヤンス、ナハル、ヨル、レル・ラレルの10形式である。[4節]

(b) 使用される待遇表現形式のうち最も多くまた広く使用されるのは（ヤ）アルである。[4.1節]

(c) 運用面においては、待遇表現形式の使用が第三者待遇に偏るという運用がみられたが、京都語のハルのように第三者マーカーとしての機能を強く持っているわけではないと考えられる。[4.2節]

(d) 使用される待遇表現形式は、（ラ）レル＞（ヤ）ハル＞（ヤ）アル＞（ヤ）ンス＞ヨルの順に待遇価が高いと思われる。[4.3節]

以下、本稿では2節で先行研究について概観したあと3節で調査の概要について述べる。そして、4節で分析について述べたのち、5節で滋賀県長浜市における調査の結果を示し分析を行ない、最後にまとめを述べる。

2. 先行研究

日本語方言における待遇表現形式の全国的な分布状況については、加藤（1973）で以下のように述べられているように東日本より西日本において複雑な体系を持っていることが知られている。

> 福島（会津を除く）から静岡にかけての太平洋側と紀伊半島南部のように、終助詞使用と命令・依頼の場合以外に敬語の枠がゼロである、いわゆる無敬語地域と、それ以外の有敬語地域とに分けられる。もっとも、福島北部、山形内陸のところどころ、長野南部、高知などは両者の中間的性格を持っているようである。なお、伊豆諸島のうち、八丈島は有敬語、それ以北の島々は無敬語である。また、東京は無敬語地域の中の言語の島と言えよう。　　加藤（1973：80）

複雑な体系を持つ西日本における待遇表現のうち、滋賀県方言を含む関西方言においては、身内尊敬用法と呼ばれる用法があること、待遇表現形式の使用が話し相手待遇よりも第三者待遇に多く見られることなど、他方言にはない特徴が見られる。

滋賀県方言については、総合的な記述を行っている筧（1962;1982）があり、待遇表現に関する先行研究には、井之口（1954）、宮治（1985）、下野（1995）、山下（2011）などがあげられる。

筧（1962;1982）は、滋賀県方言について研究史・区画・アクセント・音声・音韻・文法・語彙に関して広く総合的な記述を行なっており、待遇表現に関しては、各形式の接続や活用、年齢や地域に特徴的な方言形式についての記述がされている。

しかし、筧（1962;1982）では、総合的な記述の中において、待遇表現に関しては使用される形式とおおまかな特徴の記述がなされてはいるも

のの、その詳しい使用実態についての記述はなされていない。また、下野（1995）や山下（2011）は、滋賀県内や岐阜県との地理的分布に分析の主眼が置かれており、待遇表現の運用についてはほとんど触れられていない。滋賀県方言の待遇表現に関する詳しい使用の実態については、宮治（1985）のほか管見の限り見あたらない。

よって本稿では、関西中心部に見られる現象との関連も視野に入れつつ、待遇表現形式に関する記述を行なうことを目的として滋賀県方言に関する記述を行なう。

3. 調査の概要

3.1. 調査地

調査地の長浜市は、滋賀県の東北部に位置する。2010年1月1日に旧長浜市、東浅井郡虎姫町、東浅井郡湖北町、伊香郡高月町、伊香郡木之本町、伊香郡余呉長伊香郡西浅井町の1市6町が合併し、面積539.48km²人口124,498人、世帯数40,713世帯の現在の長浜市となった。

図1　滋賀県長浜市の位置

3.2. インフォーマント情報

調査は、2009年8月・9月に面接調査を2011年9月から10月にかけて3本の談話収録を行なった。インフォーマントは現長浜市在住で、いわゆる言語形成期を滋賀県湖北地方で過ごした9名（男性3名・女性6名）である。インフォーマントおよび談話に関する詳細は、以下表1のとおりである。なお、面接調査はすべてのインフォーマントに対して行なってはいない。表中では、面接調査・談話調査の両方に参加しているインフォーマン

トを網掛けで示している。

表1　インフォーマントおよび談話情報[1)]

談話番号	収録時間	文字化時間	話者ID	年齢	生年	性別	居住歴	関係
談話1	1:00:36	0:57:06	MHF	58	1953	女	0-長浜市高畑町	友人
			MMF	62	1948	女	0-21長浜市高畑町 22-27愛知県名古屋市 28-長浜市高畑町	友人
			MAF	63	1948	女	0-22長浜市旧びわ町 23-長浜市高畑町	友人
談話2	1:22:10	1:03:43	YIM	69	1942	男	0-長浜市	友人
			YSM	81	1930	男	0-長浜市	友人
			TKF	77	1934	女	0-長浜市	友人
談話3	1:34:17	1:15:29	FYM	69	1942	男	0-長浜市	FRFの夫
			FRF	63	1948	女	0-長浜市	FYMの妻
			OYF	73	1938	女	0-長浜市	FYM,FRFの友人

3.3. 面接調査

面接調査では、上下・親疎を軸に15名の人物を設定し、対者待遇・第三者待遇における待遇表現形式の使用を尋ねた。用いた調査文は以下の通りである。

Ⅰ）対者待遇

道で会った［X］に「今日の自治会に行くか」と尋ねるとしたら、ふだんどのように言うか。

Ⅱ）第三者待遇

［B］に「［X］は、今日の自治会に行くだろうか」と言うとしたら、ふだんどのように言うか。

回答にあたっては、調査者があらかじめ用意したカードの中から使用する表現形式を選んでもらった。用意したカードは、以下のとおりである。

①行かはる　②行きはる　③行かある　④行きある　⑤行きなはる
⑥行きやす　⑦お行きやす　⑧行かんす　⑨行きんす　⑩行きよる
⑪行っこる　⑫行きさらす　⑬行かれる　⑭いらっしゃる　⑮行かる

3.4. 談話調査

談話は、それぞれ約1時間から1時間30分程度収録し、文字化を行なった。すべて同じ町内または近くに住む親しい者同士によるくだけた場面での会話である。すべての談話が、3名による会話であるが、インフォーマントが2名での収録に難色を示したためであり、調査上の目的・意図はない。なお、談話収録に際して、話題に詰まったときのためにこちらで用意した話題表を渡しておいたが、話題については特に指定していない。

4. 分析について

4.1. 対象となる待遇表現形式

滋賀県の待遇表現形式に関する記述は、筧（1962;1982）、宮治（1985）、下野（1995）などがある。滋賀県方言に関する広く総合的な記述を行っている筧（1962;1982）では、待遇表現について助動詞の項で述べられており、各形式について、接続や活用、年齢や地域に特徴的な方言形式についての記述がされている。調査地である長浜市のある湖北地方で使用される方言形式は以下の20形式である。

【尊敬】ハル・ヤハル，アル・ヤアル，ル・ラル
　　ナハル，ヤス，レル・ラレル（非共通語系）
【親愛】ンス・ヤンス
【軽蔑】ヨル，クサル，サラス
【丁寧】マス，ドス，デス

さらに、これら表現形式の湖北地方における使用地域の分布をまとめると、表2のようになる。面接調査および談話調査で得られたデータでは、筧（1962;1982）の記述との違いはほとんど見られなかった。

表2　待遇表現形式分布表　（筧（1962）を一部改変し掲載）

方　言　区	湖北			
市　郡　名	伊香郡	東浅井郡	坂田郡	長浜市
(1) 共通語系のレル・ラレル	△	△	△	△
(2) 湖東・湖南のレル・ラレル	△	△	△	△
(3) 未然形接続のハル・ヤハル	○	○	○	○
(4) 未然形接続のアル・ヤアル	×	○	○	○
(5) 連用形接続のハル	△	△	△	△
(6) 文語系のル・ラル	○	○	○	○
(7) ナハル	○	○	○	○
(8) ヤス	○	○	○	○
(9) ンス・ヤンス	○	○	○	○
(10) ヤル・クサル・サラス	○	○	○	○

凡例：○使用　　△ 稀に使用　　× 不使用

4.2. 分析方法

談話データにおける待遇表現形式の使用については、まず、談話に現われた各待遇表現形式を抽出した。抽出の際は、4.1. でまとめた各待遇表現形式に従って認定を行なっている。次に、それぞれの形式を使用する話者による分析を行なったのち、形式がマークしている人物（主語）の特定を行なった。そして、マークされている人物の範疇化を行ない、範疇ごとに使用される待遇表現形式の数を整理した。これらの結果をもとに、滋賀県長浜市における待遇表現について分析を行なった。

面接調査で得られた結果は、対者待遇・第三者待遇別にそれぞれの人物に対する使い分けについてまとめ、談話調査の結果と合わせてそれぞれ待遇表現形式の待遇価に関する分析を行なった。

5. 調査結果

本節では、調査結果についてみていく。以下、5.1. で談話データからそれぞれの待遇表現形式について整理を行なう。そして、5.2. でそれぞれの待遇表現形式が使用される対象についてみたのち、5.3. で面接調査の結果についてそれぞれみていく。

5.1. 談話に見られた待遇表現形式

本節では談話の文字化データに基づき、それぞれの待遇表現形式の接続に関する整理と、諸形式の生起数についてみていく。

-har-・-ar-はすべての動詞およびテ形に接続し、-yahar-・-yaar-は子音語幹動詞以外の動詞およびテ形に接続する。-har-と-ar-は、-har-が連用形に接続している例が2例みられるほかは、すべて未然形に接続しており、筧（1962;1982）の記述から変化はみられない。-har-・-ar-以外の形式についても同様である。

なお、-har-/-yahar-のhの発音は不鮮明な場合があり、-ar-/-yaar-との区別がわかりにくいものもあった。以下の分析では、判別がつきにくいものについては可能な限り聞き取りを行ない、hの声門摩擦音が聞きとれたものを-har-として分析を行なっている。

また、表3の例では（ ）で示してあるが、例文（1）～（3）に示すように-yaar-の二つ目のaの発音も不鮮明で-yar-に聞こえる例がいくつかみられた（73例）。-yar-は、調査地の長浜市がある湖北地方では使用されないとされている形式である（筧1962）。

（1）MMF：○○さんも　し<u>やる</u>　言うてあったし　【談話1】
（2）YSM：上から　二人かな　降りて来あったんや　ほしたら　ほのひとが　赤マムシを掴んで<u>やん</u>ねや　手で　【談話2】

表3　談話データに基づく待遇表現形式の接続関係

待遇表現形式	前接要素	例
-har-	すべての動詞・テ形	ik-a-har-u/ik-i-har-u（行か/きはる） de-har-u（出はる） ki-har-u（来はる） si-har-u(しはる) iu-te-har-u（言うてはる）
-yahar-	子音語幹動詞以外・テ形	i-yahar-u（居やはる） si-yahar-u（しやはる） ki-te-yahar-u（着てやはる）
-ar-	すべての動詞・テ形	iw-a-ar-u（言わある） i-ar-u(居ある) ki-ar-u（来ある） si-ar-u/sa-ar-u（し/さある） iu-te-ar-u（言うてある）
-yaar-	子音語幹動詞以外・テ形	ne-yaar-u（寝やある） ki-yaar-u（来やある） s-yaar-u（しゃある） kai-te-ya(a)r-u（描いてやる）
-Ns-	子音語幹動詞	ik-a-Ns-u（行かんす） iw-a-Ns-u（言わんす）
-yaNs-	テ形	si-te-yaNs-u（してやんす） iu-te-yaNs-u（言うてやんす）
-yor-	すべての動詞	kik-i-yor-u（聞きよる） de-yor-u（出よる） ki-yor-u（来よる） si-yor-u（しよる）

（3）FYM：山のは　描いてやる人　居やあるかもわからんけど

【談話3】

分析においては、筧（1962）に示されている接続環境（-yar-：五段以外の動詞の連用形、-yaar-：五段以外の動詞の未然形）と、アクセント（例「見やる」-yar-：●○○-yaar-：●●●）の違いをもとに判別し-yaar-としている[2)]。

また、当該地域方言では、例文（4）に示すように、テ形に後接し継続・存在を表すアスペクト形式にタールという形式がある。もっとも多く使用が見られた形式の-(ya)ar-のうち-ar-がテ形に後接したときに逆行同

化が起こった場合、同形となることが推測される。しかし、例文（5）～（7）にみるように、談話ではテ形に-ar-が後接するときはすべて～テアルの形で使用されていた。

（4）YSM：ほこへ　来るための　橋が　架かったあって　【談話2】
（5）MMF：どこでご飯なるわからんで　自分で　おにぎり持ってきてくださいって言うてあったでな　【談話1】
（6）YSM：ほして　木ノ本まで　もんで　木ノ本の駅前の　あのー　元気のええ　おっさんがやあったん。　うど　うどん屋　やってあったんや　【談話2】
（7）OYF：ほしたらね　私が　もう　民謡やってある人に　若い時の着物　みんな　あげるって　言ったら　【談話3】

なお、進行や反復習慣等を表すアスペクト形式で「ている」は使用されず「てる」となり、存在動詞の「ある」は無生物にしか使用できない。

先行研究では、以上の形式のうち、-har-と-yahar-、-ar-と-yaar-、-Ns-とyaNs-、はそれぞれ接続に違いはあるが同じ待遇価をもつとされている。よって以下、本文では接続の違いによる運用上の違いがみられない限り、-har-と-yahar-を（ヤ）ハル、-ar-と-yaar-を（ヤ）アル、-Ns-とyaNs-（ヤ）ンスと表記し、分析を行なっていく。

次に、収録したそれぞれの談話において使用されていた待遇表現形式の生起数を、以下、表4にそれぞれインフォーマントごとに示す。

談話の中において使用されていた待遇表現形式は、（ヤ）ハル・（ヤ）アル・（ヤ）ンス・ヨル・ラレルの9形式である。これらの形式のうち、使用されている形式の使用数は、（ヤ）アル［374例］＞（ヤ）ハル［132例］＞ヨル［27例］＞（ヤ）ンス［20例］＞（ラ）レル［4例］の順に多いことが分かる。これら諸形式のうち（ヤ）アルは無標の形式であるφよりも

表4　談話における待遇表現形式の生起数

談話番号	談話参加者	-(ya)har-	-(ya)ar-	-(ya)Ns-	-yor-	-(ra)rer-	計	ϕ
談話1	MHF	5	24	2	0	1	32	18
	MMF	17	56	0	0	0	73	23
	MAF	3	33	2	0	0	38	19
談話2	YIM	0	19	1	1	0	21	7
	YSM	1	106	15	25	0	147	20
	TKF	0	8	0	0	0	8	0
談話3	FYM	1	25	0	1	0	27	30
	FRF	83	72	0	0	0	155	62
	OYF	18	42	0	0	3	63	55
計		128	385	20	27	4	564	234

多く用いられており、当該地域においては（ヤ）アルがもっとも汎用的に用いられる待遇表現形式であることが窺える。

5.2. 待遇表現形式が使用される対象について

本節では、待遇表現形式によってマークされる対象ごとに各待遇表現形式の使い分けをみていく。談話にあらわれた待遇表現形式はそれぞれの待遇表現形式でマークされる対象を、対者・第三者別に集計し、第三者待遇では〈特定〉の人物をマークしているものは年齢の上下と同じ地域か否か、身内か否かによってまとめてある。〈不特定〉の人物をマークしているものは、特定の対象を指していないものは〈不定〉、歴史上の人物や・神仏など虚構の存在を指しているものは〈虚構〉、人間以外の有生物は〈動物〉、世間一般のことを指している〈世間〉、公的団体や職業名のみで言及されている場合を〈団体〉、地域全体のことを指しているものは〈複数〉、特定の人物や職業名で言及されているが〈地域・外〉と〈団体〉に当てはまらないものは〈個人〉とした。集計結果は、以下表5のとおりである。

表5　対象別待遇表現形式の使い分け[3)]

待遇表現形式	第三者待遇															対者待遇			計
	一般						地域							身内		下	同	上	
								内			外								
	不定	虚構	動物	世間	団体	個人	複数	下	同	上	下	同	上	下	上				
-(ya)har-				18	18	7		5	4	9	8	12	4	3	26	4		10	128
-(ya)ar-	1	16		31	40	50	28	12	7	77	6	12	22	16	40	3	3	21	385
-(ya)Ns-				1				1		13	2	1			1		1		20
-yor-	2	3	8	1		10		1		2									27
-(ra)rer-								3			1								4
計	3	19	8	51	58	67	28	22	11	101	17	25	26	19	67	7	4	31	564

表5をみると、いずれの待遇表現形式も対者待遇より第三者待遇での使用が多いことがわかる。特に（ヤ）ンスとヨルは、（ヤ）ンスが例文（8）に示すように対者待遇で1例のみみられたほかは、すべて第三者待遇で使用されている［19例］。面接調査においても、（ヤ）ンスは対者待遇では使用しないというインフォーマントが多く、第三者待遇専用の形式であると考えられる。

（8）MAF：○○　言うと　その　この　あれかって　わんすやろ

【談話1】

また、表5からは（ヤ）ハル・（ヤ）アルでマークされる人物の多いことが確認される。同じ人物が（ヤ）ハル・（ヤ）アルでマークされている場合、その発話の文脈によるところが大きかった。文脈を考慮に入れたより詳細な分析は別の機会に改めて行ないたいが、滋賀県長浜市における待遇表現の運用は、宮治（1987）で明らかにされた近畿方言における待遇表現の運用と合致する。しかし、辻（2001;2002）で述べられているような京都語のハルの第三者待遇であることをマークするという機能とは完全に一緒ではない。〈不定〉と〈虚構〉、〈世間〉がマークされる点で標準語よ

りは広い範囲をマークすることができるが、第三者待遇でも〈動物〉をマークすることはなく、京都語のハルよりは第三者マーカーの機能を持っていない運用であるといえる。

5.3. 面接調査の結果

本節では面接調査の結果について概観する。面接調査における結果を示すと表6および表7のようになる。

表6　面接調査の結果（対者待遇）

	談話 1		談話2		談話 3
	MMF	MAF	YIM	YSM	FYM
最上	▲	▲	□	□	#
上疎	▲	▲	□	◀	▲
上親	□	□	□	□	□
同疎	□	□	○	-	-
同親	-	-	○	-	-
下疎	□	□	-	-	-
下親	-	-	-	○	-
身内	-	-	○	-	-

［凡例］ ▲：-(ya)har-　□：-(ya)ar-
○：-(ya)Ns-　◀：-nahar-
#：-(ra)rer-

表7　面接調査の結果（第三者待遇）

	談話 1		談話2		談話 3
	MMF	MAF	YIM	YSM	FYM
最上	▲	▲	□	□	□
上疎	□	□	□	□	□
上親	▲	▲	□	□	□
同疎	○	○	○	○	□
同親	○	○	○	-	□
下疎	○	○	○	○	-
下親	○	○	☆	○	-
身内	○	○	-	-	-

［凡例］ ▲：-(ya)har-　□：(ya)ar-
○：-(ya)Ns-　☆：-yor-

表6および表7から、標準語形式の（ラ）レルが〈最上〉の人物に対して使用されている。今回示した結果では1例のみの使用であるが、談話での使用がみられた4例の使用と合わせて考えると最も待遇価の高い形式であると思われる。[4)]

（ラ）レルに次いで待遇価が高いのは（ヤ）ハルと（ヤ）アルである。ともに〈最上〉〈上〉の人物に対して多く使用されている。〈上・親〉〈上・疎〉に対する使用が対者と第三者で逆になっているが、（ヤ）ハルは〈同〉

以下に使用されることはない。一方、（ヤ）アルは〈最上〉に対して使用されるとともに〈同〉以下の人物に対しても使用される。このことから、（ヤ）ハルは（ヤ）アルよりも待遇価の高い形式であると考えられる。

（ヤ）ンスは、対者待遇での使用も見られるが、第三者待遇での使用が多い形式である。対者待遇・第三者待遇ともに〈上〉以上の人物に対して使用されることはなく（ヤ）ハル・（ヤ）アルに次ぐ待遇価を持つ待遇表現形式であると考えられる。

ヨルは、（ヤ）ンス同様〈上〉に用いられることはない。談話調査の結果では〈内・上〉の人物に対する2例の使用がみられたが、「ぞんざいな言い方」「少し見下げた言い方になる」というインフォーマントの回答を得ており、最も待遇価の低い形式であると考えられる。

ナハルは談話にはみられなかった形式である。今回示した結果では〈上・疎〉に対して1例のみ使用されている。現在得られているデータが少なく待遇価がはっきりしない。発表者がこれまでに行なった調査では、複数のインフォーマントから「自分よりも上の世代が使用する形式」であるという回答を得ることが多く、無くなりつつある形式であるといえる。

6. まとめ

以上、本稿では滋賀県長浜市の待遇表現について談話調査・面接調査の結果をもとに分析を行なった。両方の調査結果をふまえて滋賀県長浜市方言における待遇表現形式についてまとめると以下のようになる。

(a) 滋賀県長浜市において主語をマークする待遇表現形式は、ハル・ヤハル、アル・ヤアル、ンス・ヤンス、ナハル、ヨル、レル・ラレルの10形式である。[4節]

(b) 使用される待遇表現形式のうち最も多くまた広く使用されるのは

（ヤ）アルである。[4.1節]

（c）運用面においては、待遇表現形式の使用が第三者待遇に偏るという運用がみられたが、京都語のハルのように第三者マーカーとしての機能を強く持っているわけではないと考えられる。[4.2節]

（d）使用される待遇表現形式は、（ラ）レル＞（ヤ）ハル＞（ヤ）アル＞（ヤ）ンス＞ヨルの順に待遇価が高いと思われる。[4.3節]

方言の待遇表現には他の文法項目と同様に標準語には見られない特徴がみられる。しかし、方言における待遇表現に関しては形式の存在に関する指摘にとどまるものが多く、具体的な意味記述、運用の記述がなされていないのが現状である。

敬語研究に関して菊地（1978）で述べられているように、敬語および待遇表現に関する研究においては、形態論・構文論・意味論・語用論それぞれに関する記述が必要である。

また、本稿で触れたナハルのように失われつつあり、詳細な把握が困難な形式もあり、早急な記述行なうことが必要である。今後、方言形式の指摘にとどまらず運用面も含めた待遇表現形式の記述を行なっていきたい。

注

1）インフォーマントの年齢は2011年9・10月調査時のものを示している。

2）-yar-を使用しないことについては、数名のインフォーマントに確認も行なっている。

3）表4では待遇表現形式が後接していないものとして「φ」もその集計に含めたが、表5では、方言における待遇表現形式の運用を見るため表からは除いてある。

4）今回、面接調査の結果は談話調査と重複するインフォーマントの分のみ示しているが、面接調査はほか7名に対して行なっている。（ラ）レルおよび標準語尊敬表現は、ほぼ〈最上〉〈親・上〉〈疎・上〉に対して使用されており、

面接調査すべての結果を合わせて考えても（ラ）レルが待遇価の高い形式といえる。

付記

本稿は第147回変異理論研究会於奈良大学での発表をもとに加筆・修正したものである。調査にご協力いただいた方々、発表の際にコメントをいただいた方々に記して感謝申し上げる。

参考文献

筧大城（1962）「滋賀県方言」楳垣実編『近畿方言の総合的研究』,pp.159-217三省堂

――（1982）「滋賀県の方言」飯豊毅一他編『講座方言学７　近畿地方の方言』,pp.55-86国書刊行会

加藤正信（1973）「全国方言の敬語概観」林四郎・南不二男編『敬語講座6　現代の敬語』,pp.25-83明治書院

菊地康人（1978）「敬語の性格分析 ―― 先学の敬語論と私自身の把握 ―― 」『国語と国文学』55-12,pp.42-56, 東京大学国語国文学会

下野雅昭（1995）「琵琶湖東岸の待遇表現序説」徳川宗賢・真田信治編『関西方言の社会言語学』,pp.130-151世界思想社

辻加代子（2001）「京都市方言・女性話者の「ハル敬語」 ―― 自然談話資料を用いた事例研究 ―― 」『日本語科学』10,pp.56-79.国書刊行会

――（2002）「京都市方言・女性話者の談話における「ハル敬語」の通時的考察 ―― 第三者待遇表現に注目して ―― 」『社会言語科学』5-1,pp.28-41.社会言語科学会

宮治弘明（1985）「滋賀県甲賀郡水口町八田方言における待遇表現の実態 ―― 動作の主体に対する表現をめぐって ―― 」『語文』46,pp.33-49.大阪大学国語国文学会

――（1987）「近畿方言における待遇表現運用上の一特質」『国語学』151,pp.38-56.日本語学会

山下暁美（2011）「方言における男女差 ―― 滋賀県を例に ―― 」『明海大学外国語学部論集』23,pp.31-43. 明海大学外国語学部

（大学院博士後期課程学生）

SUMMARY

Taigu Hyougen **Used in Nagahama City, Shiga Perefecture: Towards the Description of** ***Taigu Hyougen*** **in Various Japanese Dialects**

Masashi SAKAI

Various *taigu hyougen* are used in the Nagahama dialect of Japanese, spoken in Nagahama City in Shiga Prefecture. However, previous studies on *taigu hyougen* in the Nagahama dialect only described how the forms are conjugated. When studying a dialect, it is necessary to treat and then describe that dialect systematically. It is also necessary when examining politeness, which is related to the use of *taigu hyougen*, to not only look at the linguistic forms used, but also to gain a detailed understanding of the actual situations in which they are used.

This paper focuses on *taigu hyougen* in the Nagahama dialect, and analyzes them based on both elicitation data and conversation data. The ten suffixes used in the Nagahama dialect, -(ya)har-, -(ya)ar-, -(ya)Ns-, -nahar-, -yor-, and -(ra)rer-, are described, and it is shown that -(ya)ar- is the most commonly used. In addition, it can be seen that the use of *taigu hyougen* in this dialect is biased towards the treatment of a third person, but they appear to not function as strongly as third person markers as does -har- in the Kyoto dialect.